

中心静脈カテーテル（CVC）挿入時の事故発生についてのご報告【訂正】

近畿大学医学部附属病院におきまして、腹膜癌の患者様へのCVCカテーテル挿入時に医療事故が発生いたしましたことをご報告申し上げます。

平成25年3月12日15時頃、当院入院中の患者様に対し、今後の継続的治療に備え皮下埋め込み型CVCカテーテル挿入を施行していた際に、突然患者様の容体が急変いたしました。ただちに救急処置室において気管内挿管を含めた緊急蘇生措置を行いました。患者様は治療に反応されず、残念ながら同16時40分にご逝去されました。原因につきましては、当院内部調査委員会において現在、検討中ではありますが、同委員会の現時点での見解では、カテーテル挿入操作施行医師は、院内中心静脈カテーテル穿刺認定を受け、多数例の穿刺経験を持つ医師が行っており、院内規定である超音波（エコー）装置を用い、X線透視下に施行しておりました。また、急変後の止血操作、投薬処置も問題点は見出せず、現状では明らかな過誤を指摘することはできず、合併症の範疇に属するものと判断しております。今後、さらに委員会において、その原因究明に全力を尽くす旨、患者様のご家族にも了解いただいております。

患者様、ご家族の皆様には深い哀悼の意を表しますとともに、今後、このような事案を予防すべく検討し、さらなる改善を図って行く所存であります。
以上、経過についてご報告申し上げます。

2013年3月26日

近畿大学医学部附属病院

病院長 工藤正俊